

エムダイヤ

新たな収益源 廃アルミ線扱い

リサイクル仲介事業開始

【滑川】環境機械メーカーのエムダイヤ(本社「富山県滑川市、森弘吉社長」)はこのほど、リサイクル分野の仲介事業を開始した。メーカーなどの金属スクラップ発生源とエムダイヤの機械納入先である金属リサイクル業者を仲介することで、金属スクラップの国内流通を円滑にする。新たな収益源となるビジネスモデルを確立することで、将来の東南アジア展開に備える狙いもある。

東南アジア展開も視野

大手電線メーカーとリサイクル業者との間で発生する工程内スクラップや、電線メーカーの子会社などが市から購入したアルミ

はエムダイヤが独自に開発したリサイクル設備「エコカッター」や「エコープカッター」を使ってアルミ電線スクラップを解体処理する。被覆材や鉄線などを取り除いた後に回収し分析することで、新

したアルミスクラップは、エムダイヤが金属リサイクル業者から購入して電線メーカーに売却する仕組みだ。

金属リサイクル業者が使う機械には、エムダイヤが中心に企画して開発したIoTモジュールを設置する。アルミ電線スクラップの処理量や稼動時間などあらゆるデータを取得し分析することで、新



工場に設置した廃アルミ線処理設備

規事業である仲介事業の今後の基盤強化に役立てたい考えだ。

本製の機械は高性能だが高価なため購入に至るケースが少ないという。エムダイヤはこのためリース方式で東南アジアのリサイクル業者に機械を提供する。

外における総合的な環境リサイクル企業への飛躍を目指す。

エムダイヤはエコセパレは独自開発の刃物構造による剥離技術が特長。また製造する機械の構造部材を全て内製し、顧客の要求に応じたオーダーメイドの機械を供給できる。顧客基盤も自動車などのメーカーから電線、製錬といった素材メーカーまで幅広い。

さらに日本国内でこれから蓄積する仲介事業のノウハウを生かした事業展開を図り、国内